

留学初期における学習者像把握のための調査報告

ーコース開始時アンケートの結果をもとにしてー

小川多恵子 小宮修太郎 高橋 純子

長能 宏子 平形裕紀子 三井 豊子

要 旨

留学生は何を期待し、どんな予想をして留学してきているのだろうか。彼等の留学目的、日本語学習目的とその取り組み方を知ることができれば、適切な対応ができ、よりよい学習環境が提供できるであろう。留学生の実像を知るため6ヵ月の日本語集中コース開始時と終了時の二回アンケート調査を行うことにした。

本稿では、そのうちのコース開始時における学習者の留学目的、日本語学習の目的と動機及び日本語学習観などについての調査を行い、その結果を考察した。

【キーワード】 留学初期 留学目的 学習目的と動機 予想と期待 ビリーフ

A Study of Foreign Students at the Beginning of their Study in Japan: based on the results of a survey at the beginning of the intensive Japanese course

Ogawa, Taeko Komiya, Shutaro Takahashi, Junko
Naganou, Hiroko Hirakata, Yukiko Mitsui, Toyoko

In order to seek ways to provide more adequate treatment and better learning environment for foreign students, this paper explores what students had expected and foreseen before coming to Japan, what purpose and prospects they have, how strongly they are motivated in studying Japanese, and what attitude they have towards language learning.

1. 問題の背景

これまで筑波大学留学生センターでは、筑波大学あるいは近辺の国公立大学に入学する学生を対象に6ヶ月の日本語予備教育生を受け入れていたが、2年前から、都内の私立大学に入学する学生も受け入れるようになった。

一般に大学での国費の日本語学習者、特に日本語予備教育生は専門をもっている点、その多くが大学院を受験し、将来研究に携わるという点でかなり等質性をもった集団である。しかし大学によって入学試験の科目や入学後の講義形態が異なり、研究生活における日本語の要求度がそれぞれ違う。さらに、大学の所在地からくる生活環境の違いなどにより、他の大学に行く学生の数が増えれば、それだけ学習者の日本語に対する動機、ニーズ、学習目標などに広がりが出てくる。そのような学習者の広がりからくる環境不適應、学習不振なども当然予想される。

このコースの学習者の特質としては、学習者の出身は世界各国にわたっており、年齢は20代後半が多く、社会経験があり、社会的地位も高く、独自の判断力、鋭い批判力を持っていることがあげられる。そこであがってくる

1. 学習者の歴史的、文化的背景に関する知識が教師側に不足しており、学習者の個人的要素が見えにくくなっているのではないか。
2. 言語を自由に操り、研究生活という知的作業に携わってきた学習者にとって、繰り返し練習するなどの単純な要素を含む日本語学習がどのように受け入れられているのであろうか。
3. 母語と同じ語族の外国語学習の経験がある学習者が、構文、語順、表記方法などの違う日本語学習にどのように対処していくのであろうか。

などの点について情報を収集し考察を進めていく必要があろう。

2. 研究の目的

留学生は明確な留学目的、来日目的、留学動機をもっているのが当然であり、また日本に留学したからには日本語を勉強するのが当然と認識しているだろうと思われるが、はたして本当に本人達はそのように認識しているのだろうか。改めて本人達に問い直し、本人達からの情報を基に、留学生の実像を探り、それを教育現場にいかそうというのが本稿の目的である。

本稿の主な関心、方向は大きく次の3つからなる。

- 1) 留学の目的、動機、予想（期待）に関するもの
- 2) 留学生の心理的側面に関するもの
- 3) 言語学習観と他の外国語学習経験の影響

1) は留学生の来日および日本語学習の目的、動機、予想（期待）などであり、2) の心理的側面とは、習慣、環境の異なる異文化の中で留学生が受けるであろう心理的負担、及び日本語学習にお

ける心理的負担であり、3)は言語学習についてどのような考えをもっているか、また過去の外国語学習経験が日本語学習にどのように影響しているか、である。

これらを数年間、分析、考察し、学習者の傾向及び変化を明かにし、よりよい学習環境作りの一助になればと期待している。

3. 研究の方法と対象

筑波大学留学生センターにおける6ヶ月の日本語予備教育の開始時と終了時の2回ずつ、今後数年間にわたりアンケート調査を行うことにした。回答は選択形式がほとんどであるが、自由記述の欄も併記した。外国語学習観については、ビリーフ調査を行った。

日本語予備教育の開始時アンケートでは、主に目的、動機、予想(期待)および外国語学習観に関するものを、終了時アンケートでは、6ヶ月の予備教育期間を終わり留学生活に対し日本語教育が果たした役割、成果を問うとともに日本で留学生活をしていく自信について尋ねるものである。

まず'96年の秋学期の開始時と終了時に本研究のパイロット的調査を行い、それらをたたき台として見直し、整理をし、今回新たにコース開始時アンケートとして実施した。

本稿はその報告である。

実施時期は今年5月末、対象は筑波大学留学生センター日本語予備教育生20名(ただしアンケート回収は19名)(表1)である。

表1-a 国別アンケート調査対象者の内訳

国	人数
コスタリカ	1
マレーシア	1
ガテマラ	1
ケニヤ	1
オランダ	1
トリニダードトバコ	1
ブルガリア	1
ブラジル	1
ニュージーランド	1
アルゼンチン	2
ルーマニア	2
タイ	2
インドネシア	2
フィリピン	3
計	20

表1-b 専門別アンケート調査対象者の内訳

専門分野	人数
社会系	10
工学系	5
理系	3
人文系	2
計	20

以下にアンケート調査の14項目と回答形式を簡単に紹介する。質問項目は本稿巻末を参照されたい(資料1)。

1. どうして日本に留学したか。(順位をつけ二つ選ぶ)
2. 日本で何が一番したいか。(順位をつけ二つ選ぶ)

3. 帰国後、何を期待されているか。(順位をつけ二つ選ぶ)
4. 帰国後、よいポストで仕事ができると思うか。(多肢選択)
5. 日本について何か知っていたか。(多肢選択)
6. 日本に対するイメージはどんなものであったか。(多肢選択)
7. 日本での生活に関する予想はどんなものであったか。(多肢選択)
8. 来日前、どんな準備をしたか。(多肢選択)
9. 最初の6ヶ月は何をしようと思っていたか。(多肢選択)
- 10-1. どうして日本語を勉強するか。(順位をつけて二つ選ぶ)
- 10-2. 日本語学習への取り組み方について(5段階表示)
11. 外国語学習経験の有無と方法について(選択)
12. どのように日本語を勉強しようと思っていたか(多肢選択)
13. 6ヶ月後日本語で何ができると思うか(多肢選択)
14. 日本語開始前、学生でなかった人は学生になることに関してどう思うか
(選択及び自由記述)

4. 結果と考察

4.1 留学の動機

留学の動機を調べるために、本人が日本留学を選択した理由と留学に対する期待、また、学生の本国でどのようなことを期待されているか(期待されていると思っているか)について、質問1～4で調査した。質問1、2、3は理由が強い順に2つ選んでもらい、「1」「2」をつけてもらった。質問4は「はい」「いいえ」「わからない」から一つ選んでもらった。

結果は、以下の通りである。

表2

質問1 留学先に選んだ理由	
理由	人数*
専門研究に有利だから	10(11)
他の人に勧められたから	2
自国では、日本留学への評価が高いから	3
アジアの国で勉強したかったから	1
日本に興味があったから	7(8)
日本は安全だから	0
日本の奨学金がもらえたから	11
他の国の奨学金がもらえなかったから	2(3)
日本の奨学金は他の国より高いから	0
日本に来たことがあるから	0
日本は、地理的に近いから	2
その他	0

* ()内は、2つ以上の回答をした人の回答も含めた場合の数

表3

質問2 留学に期待すること	
期待	人数*
学位取得	16
専門の研究	8(10)
人脈を作る	3
友人を作る	1
日本語習得	2(4)
日本通になる	0
経験を積む	8(1)
貯蓄	0
特になし	0
その他	0

* ()内は、2つ以上の回答をした人の回答も含めた場合の数

表 4

質問3 留学で期待されていること	
項目	人数*
専門家になる	17(1)
日本語習得	6(7)
日本通になる	7(8)
人脈を作る	5
特にない	0
その他	1

* ()内は2つ以上の回答をした人の回答も含めた数

「なぜ日本を留学先に選んだのか」(質問1)という問いに対して、最も多かったものは「専門の勉強に日本が最も適していたから」と「日本の奨学金をもらったから」で、ともに11名ずつの回答があった。質問1では学生に2つ回答してもらっているが、大多数の学生はこのどちらかを選択しており、上記の答を含まない回答をした者は1名のみであった。また、次の「日本での留学に期待すること」(質問2)についても、最も多かったのは、「学位取得」で、全体の8割に当たる16名が選択している。ついで「専門の研究」が8名となっている。このことから、本センターの留学生は、「日本で研究活動を行う」というかなり明確な目的意識を持っているものと推測される。

しかし、質問2で「日本語が上手になる」ことをあげた学生は、総数で4名にとどまっている。指示通り2つ選んだ学生2名は2番目に選んでおり、2つ以上の答えをした学生のうち一名についても順番としては3番目に選んでいる。また、「日本についてよく知る」を選んだ学生はいないという結果を見ると、研究にとっては有利な国であるが、日本という国やその言語を学ぶことは、留学の主眼には置かれていないことが察せられる。

周囲からの期待(質問3)でも、やはり「専門の研究者になること」が17名で最も多い。しかし質問2では回答が少なかった「日本語が上手になる」「日本通になる」が、それぞれ、6名(7名)と7名(8名)に増えている。

更に「国に帰ってから日本での留学成果を活かしてよい地位につけるか」(質問4)については、「はい」が17名、「よくわからない」が3名であった。

これらの点からみると、本センターで学習している留学生は、「日本で専門的な研究を行う」あるいは「学位をとる」というはっきりした目的を持つという共通した特徴をもっているといえる。また、日本語学習については、専門研究に比べて二次的な役割であると考えられる。

4.2 日本についての留学前に持っていたイメージ

次に、留学前に日本についてどのような接触があったか(質問5)及び、日本についてどのようなイメージを持っていたか(質問6)について見てみる。回答は当てはまるものをすべて選んでもらっ

た。

結果は、次の通りである。

表 5

質問 5 留学前の日本との接触	
項目	人数
日本に来たことがある	5
日本人の知人がいる/いた	5
日系企業での就労経験がある	1
日本語を勉強した	8
日本製品になじみがある	8
日本文化になじみがある (相撲、歌舞伎、アニメ、料理など)	8
特になかった	5

表 6

質問 6 日本に来る前、日本のことをどう思っていたか。			
否定的な項目 (回答数46)		肯定的な項目 (回答数131)	
遠い	5	心理的に近い	3
興味ない	0	興味深い	19
好きではない	0	好きな	7
危険な	0	安全な	17
貧しい	0	金持ち	12
物価が高い	17	物価が安い	2
醜い	0	美しい	14
不親切	0	親切	9
閉鎖的	5	開放的	3
非民主的	0	民主的	3
差別的	2	効率的	15
働き過ぎ	8	働き者	16
混んでいる	9	正直	11

質問 5 では、接触の程度を、「来日経験」「日本人の知人」「日系の会社での就職経験」などの項目で調べてみた。その結果、「日本文化を知っていた」「日本の製品を知っていた」「日本語を勉強した」の3つが最も多く、それぞれ、8名ずつであった。また、「日本にきたことがある」「日本人の知合いがいる」など、より強い接触があったものが5名ずつ、「就労経験」が1名、である一方、

「特になし」と答えた者も5名おり、全体としては『なんとなく知っていた』程度の接触であったと思われる。

しかし、日本についてのイメージを聞いた質問6では、のべ177の回答のうち、肯定的なものを選んだのが131、否定的なイメージを選んだのが46で、日本に対しては、肯定的な考え方をもっていたようである。なお、否定的な意見については、「物価が高い」「混んでいる」などの生活環境の上での不便さを表すものが大部分であった。少数ではあるが、「閉鎖的」「差別的」など国民の意識や文化についての項目を選んだものもいた。

4.3 日本語学習の目的とモチベーション

4.3.1 目的

予備教育生は、主としてどのような目的を持って、日本語を学習しているのだろうか。質問10-1では、「日本語学習の目的は何ですか。第1の目的に1、第2の目的に2と入れなさい。」という形で、主な目的を2つだけ選んでもらった。その個人別の結果は下の表7に示すとおりである。この質問10-1の結果からわかることは2つある。

1つは、主要目的の中に「専門の研究で使うため」、または「大学院の入試に受かるため」が含まれている人が多くの割合を占めていることである。集計してみると、「専門」を選んだ人は19名中、12名で63%、「院の入試」を選んだ人は5名で、27%となっている。また、そのいずれかを選んだ人は16名で、84%となっている。このように、このコースでは、何らかの意味で専門分野の研究と関わりのある目的を持って、日本語を学習している人が多い。

2つめに、第1の目的として上記以外のものを選んだ人がかなりいることから、目的意識の面の多様性も感じられることである。その内訳を見ると、「日本の文化、日本人の考え方をよく理解するため」が4名、「将来の仕事で使うため」が2名、「人間関係をよくするため」が1名、「日常生活で使うため」が1名、合計8名となっている。この8名のうち、第1、第2目的のいずれにも、「専門」や「入試」が含まれていない人は、3名いる。その主要目的の組み合わせは、「仕事・文化」「関係・仕事」「生活・文化」となっている。

表7 【日本語を学習する目的とモチベーション】(質問10)

学習者	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
第1目的	専	専	専	専	専	専	入	入	入	入	文	文	文	文	仕	仕	関	生	*
第2目的	生	生	生	文	関	地	専	専	仕	関	専	専	専	入	専	文	仕	文	*
質問10-2 (1)	4	4	5	4	5	5	4	4	5	5	4	5	5	5	5	5	5	4	5
(2)	4	4	5	4	5	5	4	3	5	5	4	4	5	5	5	5	5	4	5
(3)	上	上	中	4	上	上	中	上	上	中	4	上	上	上	上	中	上	中	上
(4)	5	5	5	3	5	5	4	4	5	5	4	5	5	5	4	2	3	1	5

(注)「専」は専門、「入」は入試、「文」は文化、「仕」は仕事、「関」は人間関係、

「生」は生活、「地」は「将来いい地位を得るため」の意味。＊は不明。

(1)(2)(4) で、5 4 3 2 1 は、この順で「強い肯定、肯定、中間、否定、強い否定」を意味する。

(3)で、上中4 は、この順で「上級まで、中級まで、その中間まで」を意味する。

4.3.2 モティベーションの高さ

次に、上の表7に示した質問10-2の回答結果から、学習者の日本語学習へのモチベーションの高さを見ていくことにする。これは、以下の4つの質問に対して5段階の選択方式で答えてもらうものであった。

- (1) 日本語を積極的に学びたいですか。
- (2) 困難を感じても、日本語学習を続けますか。
- (3) 留学中に、日本語学習のどのレベルまで到達したいですか。
- (4) 専門のための日本語を使えるようになりたいですか。

この項目の結果からわかることは、回答者全員がかなり高いモチベーションを持っていることである。そのことは、(1)の質問に全員が5か4を選び、(2)の質問に、1名を除いて残りの全員が5か4を選んだことからわかる。各質問の回答における5、4、3の割合を示すと、(1)では「5」が19名中、12名で、63%、「4」が7名で、37%となっており、(2)では「5」が19名中、11名で、58%、「4」が7名で、37%、「3」が1名で、5%となっている。

(3)の質問にある日本語学習の到達目標(留学中に)では、「上級まで」が19名中、12名で、63%を占めている。「中・上級の中間」は2名で、11%、「中級まで」は5名で、26%となっている。ここでも多くの学習者が高い到達目標をもって日本語学習に取り組んでいこうとしているのが感じられた。

(4)の、専門のための日本語の習得希望を問う質問に対しては、「5」を選んだ人が11名、「4」を選んだ人が4名、その合計は19名中、15名で79%を占めている。一方、「3」以下の人は、合計で4名、21%となっている。ここでも、多くの人が「専門で使える日本語を習得したい」という希望を持っていることがわかった。

以上のように、この学習者集団の日本語学習へのモチベーションは全体的に高く、多くの人が高い到達目標を持っていることがわかった。

4.3.3 留学生活における日本語の必要性についての予想と、その準備

それでは、これらの学習者たちは、来日以前には「日本語の必要性」について、どのような予想を持ち、どのような準備をしてきたのだろうか。質問7の「日本での生活についての予想」の集計結果をまとめた表8および、質問8の「留学前に準備したこと」の集計結果をまとめた表9を見てみよう。この2つの質問は、いずれも複数回答方式(いくつでも可)である。

表8 「日本での生活についての予想」 (質問7)

選択肢	人数	比率(%)
「大学院の講義は日本語でなされる」	8	42
「専門書は日本語で書かれている」	6	32
「指導教官とは日本語で話す」	10	53
「日常生活は英語で足りる」	2	11
「生活のための日本語の習得は容易だ」	8	42
「日本の生活様式は自国と大きく異なる」	11	58
「文字・表記の仕方は自国と大きく異なる」	7	37

質問8への回答結果を見ると、「日常生活のコミュニケーションは、英語で足りる」を選んだ人は19名中、2名にすぎず、ほとんどの人は、生活のための日本語は必要だろうと考えていたことがわかる。

しかし、大学院での研究生活で、どのような面で日本語が必要となるかについて、明確な予想を持っていた人は、少数だったようである。例えば、「専門書は日本語で書かれているだろうと予想した」を選んだ人は、6名にすぎない。また、「指導教官とは日本語でコミュニケーションをするだろうと予想した」人は、10名で、約半数にとどまっている。さらに、日本語という言語について明確なイメージを持っていた人も少数だったことをうかがわせるデータもある。それは、「日本語の表記システムは自国の言語のそれと大きく異なるだろうと予想した」人が7名にすぎないということである。

表9 「来日する前に準備したこと」 (質問8)

選択肢	人数	比率(%)
「日本語を学んだ」	11	58
「日本についての本を読んだ」	10	53
「友人・知人から情報を集めた」	10	53
「何もしなかった」	1	5

では、来日以前に日本語を学習してきた人は、どのぐらいいるのだろうか。質問8への回答結果を見ると、留学準備のために「日本語を勉強した」人は、11名で、約半数を占めている。しかし、その内訳を見ると、それまで未習者だった人は6名にすぎない。つまり、それまで未習者だった14名のうちで、準備のために日本語を勉強し始めた人は6名ということで、少数の割合にとどまっていたことがわかる。

このように、このコースの学習者のうちの多くは、日本での留學生活の言語面や日本語については、あまり明確なイメージも、詳しい情報も持たないまま、来日してきているように思われる。

4.4 最初の6カ月間の過ごし方についての予想

次に、学習者たちは留學生活の最初の6カ月の過ごし方については、どのような予想を持っていたのだろうか。質問9の「最初の6ヶ月間をどのように過ごすと予想していたか」の回答結果をまとめたのが表10である。これも複数回答方式（いくつでも可）になっている。

表10 【最初の6ヶ月の過ごし方の予想】（質問9）

選択肢	人数	比率(%)
「日本語を集中的に学ぶ」	15	79
「入試の準備をする」	10	53
「専門研究をできるだけする」	1	5
「日本語と専門の両方を学ぶ」	9	47
「将来の研究の方向を決める」	7	37
「日本の生活に慣れる」	12	63
「自分の将来を考える」	2	11
「リラックスする」	2	11
「その他」	0	0

質問9への回答結果を見ると、「日本語を集中的に学ぶ」が19名中、15名で、79%、「日本の生活に慣れる」が12名で、63%、「入試の準備をする」が10名で、53%と、この3つが上位を占めている。この後には、「日本語と専門の両方を学ぶ」が9名、「将来の研究の方向を決める」が7名、と続いている。

この中で、日本語学習に関連する答の分布状況を見ると、「日本語を集中的に学ぶ」を選んだ人は、全体の4分の3を占めた。しかし、その中で、全体の約4分の1にあたる人は、同時に「日本語と専門の両方を学ぶ」も選んでいるので、完全に「日本語だけ」と考えていた人は、約半数にとどまることがわかる。また、「日本語と専門の両方を学ぶ」だけを選んだ人は、全体の約4分の1である。

ところで、この点についての答え方と、質問10-2の（1）、（2）の答え方の間には、明確な対応関係が見られる。その関係を示すために、個人別に質問9と質問10-2の回答結果の一部を抽出してまとめたものが下の表11である。

表11 【質問9の答え方と質問10-2の答え方の対照表】

学習者	C	E	F	I	J	M	N	O	P	S	A	G	H	K	B	D	L	R	Q
質問10-2 (1)の答	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4	5	4	5
(2)の答	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	3	4	4	4	4	4	5
質問9 a 日本語を集中的に	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○					○
d 日本語と専門											○	○	○	○	○	○	○	○	○
c 専門をできるだけ																			○

（注）学習者の記号は、表7と対応している。

これを見ると、「a.日本語を集中的に」だけを選んだ人は、その全員が、質問10-2の(1)、(2)では「5・5」を選んでいる。これに対して、「d.専門と日本語の両方」だけを選んだ人と、aとdの両方を選んだ人は、ほとんどが「4・4」または「4・3」を選んでいるのである。この対応関係から考えると、「専門の研究を早く進めたい」という気持ち、あるいは、専門の研究と日本語習得という2つの課題の間で揺れる気持ちを持つ人は、日本語習得への積極性の意志表示という面では控えめになる傾向があると言えるのではないだろうか。

このように、全体的に見て、多くの人が最初の6カ月間を「日本語習得や生活適応をすすめる期間」と考えていたことがわかる。しかし、半数ぐらいの人は同時に専門の研究も進めていきたいと考えていたこと、そのことが日本語学習への積極性という点では負の影響を及ぼしていた可能性もあることがわかった。

4.5 学習者の外国語学習体験

調査表問11において学習者の過去の言語学習体験を知り、それが言語学習観、態度に影響を与えているかを考察しようとした。その結果、次のような情報が得られた。

外国語学習経験者 20名中17名(無記述 2名)

学習言語	英語	15名
	仏語	6名
	独語	4名
	日本語	4名
	露語	3名
	伊語	3名

外国語学習でどのような授業を受けたかという問に対する答として、a.会話 b.講義 c.口頭練習 d.翻訳 e.文法 f.LL g.読解 h.視聴覚教材を使用する i.教科書に沿う j.その他の10の選択肢のうちから多くの学習者がほとんど全ての方法を選んでいた。

表12

a.会話	b.講義	c.口頭練習	d.翻訳	e.文法	f.LL	g.読解	h.視聴覚	i.教科書	k.その他
15	13	14	14	17	8	13	13	12	0

活字にたよる読み書き中心、翻訳法などに偏った言語学習体験をもった学習者はなく、ほとんどの学習者が様々な教授法を経験してきた。したがって、今回の調査では言語学習体験が学習者の言語学習観に与える際立った要因は見い出せなかった。

4.6 コース開始前の予想

質問12、13では、留学生が日本語の授業に対して、具体的にどのような予想を持ってやってきているのかについて質問した。これらの予想は、彼らにとってマイナスの方向に裏切られた場合、学習意欲の減退などの要因となることも考えられる。また、プラスの方向に裏切られた場合などは、学習意欲がより高まることも考えられる。従って、これらの項目については、今回の調査の中だけでなく、同一の学生に対する終了時のアンケートの結果と対比して考察することも必要であろう。

回答方法は、質問12-1については当てはまる項目をすべて選んでもらい、12-2と12-3については、一つだけ選んでもらった。

質問12の結果は以下のとおりである。なおこの質問については、すべてに無回答の学生がいたため総数(n)は18である。

表13 質問12 日本語のコースをどのようなものだと予想していたか。

1 教授法

項目	a. 会話	b. 講義	c. 口頭練習	d. 翻訳	e. 文法
人数	13	7	12	5	16

項目	f. L L	g. 読解	h. 視聴覚	i. 教科書	j. その他
人数	8	8	6	12	0

2 クラスの人数

20人以上	10～20	10人以下	個別学習	無回答
1	6	10	0	1

3 授業時間

A 一日の授業時間

5時間以上	3～5時間	1～3時間	時間以下
9	6	3	0

B 一週間の授業日数

5～6日	3～4日	1～2日
12	6	0

質問12の「1. 教授法」の予想は、質問11-1の結果に似ており、答えが分散している。(表13)しかし、11と異なるのは、その中でも「a. 会話」「c. 口頭練習」「e. 文法」「i. 教科書」を選択した

学生が比較的多い点である。選択された回答の組み合わせでも、この4つを組み合わせた回答が幾分目立った。これは学習者の言語学習体験に関わらず、「教科書を用いて、文法を勉強しながら、会話を中心に勉強する」という予想を持つ学習者が多かったことを示していると思われる。

「3. 授業時間について」は、「週5～6日、毎日5時間程度」という一般的な集中コースの時間を予想していた学習者が半数近くに上った。しかし、集中コースよりやや緩やかな時間割を予想していた学習者もほぼ同数いることは、注意しておくべきであろう。

質問13は、6ヶ月という集中コースにおいては初級終了と見なされる期間後に、学習者自身がどの程度の到達点を予想しているかを調べたものである。(表14) これは、ヨーロッパ言語などに見られるように、母国語と学習言語の類似性から、6ヶ月程度でかなり学習言語を使えるようになる場合もあり、同様なことを日本語にも求めているか否かを推測することができると考えた。回答は当てはまる項目すべてを選んでもらった。

結果を見ると、教師側が予想する終了時の到達点(「日本人とおしゃべりをする」等)を選んだ学習者も多いが、それ以上を期待する学習者も相当数人のぼった。その大多数は、「テレビ番組が分かる」(10名)「手紙がかける」(8名)「時事問題について討論できる」(7名)など、初級修了から中級程度の能力を選択していた。この点では、学習者の予想はそれなりに高いが、現実離れしたものではない。しかし、専門に関してはその限りではなく、3分の1近くの学生が、読む、書く、聞くについては、かなり高いレベルの技能を身につけられるであろうと予想していた。特に、読みに関しては、「専門書・論文が読めるようになる」(6名)が「小説・雑誌が読める」(2名)「新聞が読める」(3名)を上回っており、これは、予想の甘さと見るよりも、学習者の専門研究に向ける意欲の高さと解釈できるように思われる。

表14

質問13 6ヶ月後に日本語でどのようなことができるようになると思うか	
項目	人数
新聞が読める	3
専門書や論文が読める	6
小説や雑誌が読める	2
手紙が読んだり書いたりできる	8
専門のレポートや論文が書ける	5
日本人とおしゃべりができる	16
時事問題について、日本人と討論ができる	7
テレビのニュースやドラマが分かる	10
講義が分かる	6
専門分野での発表ができる	6
セミナーに参加できる	4
その他(学生の表記)	
日常生活・専門での基礎的な技能の習得	1
どれも当てはまらない	1

なお、今回の調査ではコース開始の時点で、数週間から数ヶ月日本語を学習していた学生が6名おり、これらの学生は、ほぼ未習の状態で始めた学生と異なる予想をしている可能性もある。そのため、彼らの回答と未習の学習者が選んだ回答を比較してみた。

結果は、以下の通りである。既習の6名が選択していない項目は、削除してある。

表15

	総数	既習	未習
新聞雑誌が読める	2	1	2
専門書や論文が読める	6	2	4
小説や雑誌が読める	2	1	1
手紙が読んだり書いたりできる	8	4	4
日本人とおしゃべりができる	16	4	12
時事問題について、日本人と討論ができる	7	5	2
テレビのニュースやドラマが分かる	10	2	8
講義が分かる	6	2	4
専門分野での発表ができる	6	1	5
セミナーに参加できる	4	1	3

分布の傾向は、未習の学習者とほぼ同程度であり、全体としては、短い期間での学習経験はこの予想に大きな影響は与えていないと思われる。しかし、「時事問題について、日本人と討論ができる」については、例外であり、5名の既習者が選択している一方未習者は14名中2名しか選択していない。総数が少ないため、断定的なことは言えないが、この調査における既習者は、時事問題を話すための語彙が少なくても、何らかの方法で討論をするためのストラテジーはあるはずだと考えている可能性はある。この点に関しては、既習者、未習者の数をそろえて、より精密な調査を行う必要があろう。

4.7 ビリーフ調査（注）

4.7.1 作成目的

学習初期の1カ月が経過するころから個人差が目立つようになるようだが、同時に、日本語授業も含めて異文化への適応のしかたにも差が現れ、授業への参加態度やさまざまな場での人間関係づくり、コースや社会環境に対する評価などに多様な視点からの反応が示される。特に問題が表面化しない場合は、それらの反応は自然に受け止められる。だが、学習者が困難や苦痛を強く感じたり不満を口にするなど、何らかの問題が表面化した場合には、学習者の意識的・無意識的な期待と教師側の予想や対応とにずれが生じている可能性も考えられる。

そこで外国語学習に対する「態度」「意識」など、学習者が日本語授業に対してふだん考えているであろうことをおおまかに掴むために、アンケートの一部としてピリーフ調査を行った。

これは、日本語学習に対する学習者の考え方や学習行動などから34項目を選定したものである(資料2参照)。教室での観察では、コース開始時、レディネスには多少の差が見られるものの、日本語学習に対する動機は全体的に高く、日本語における表記の使い分けや文化的なことなどについての積極的な質問(英語)や学習者の表情などからは強い学習意欲が感じられた。

本コースの学習者の場合、日本語学習への動機は全体的に高いが、日本語学習への取り組みかた(=態度)に多様性が見られることから、日本語学習への取り組みの態度を探ることが適当だろうと考えた。

4.7.2 調査項目の分析と考察

調査内容は(1)言語適性に関するものが4項目、(2)言語学習に関する難易が4項目、(3)言語学習の性質についてが16項目、(4)言語学習とコミュニケーション・ストラテジーが10項目である。各項目に対する意見は5段階のうちのどれかで示す(資料参照)。この分析では5段階の表示のうち、1、2を賛成、3をどちらとも言えない、4、5を反対として集計した。

アンケート結果から、全体の傾向は大きく三つに分類できる。まず、項目内容に対して「賛成」が圧倒的に多く、「反対」も「どちらとも言えない」もゼロに近い項目(A)、項目内容に対して「反対」がとくに多い項目(B)、3種の意志表明の割合が近いが、「どちらとも言えない」の割合が相対的に多くなる項目(C)である。Bの項目は3項目だけであったが、いずれも明確な学習観が現れる内容であった。

(1) 言語適性

外国語学習については、項目1「若い人のほうが易しい」、項目2「特別な能力を持つ人がいる」という客観的な立場から判断するものについては、それを認める方向でほぼ一致している(85%)。だが、項目14「私には特別な能力がある」、項目10「二つ目の外国語学習は易しい」では、ともに「どちらとも言えない」という答が半数を超えた(53%)。自分自身の能力に自信を示したものは少なかった(21%)。

表16

(1) 言語適性			
1. 賛成	16 (84%)	中3 (16%)	反対 0
2.	17 (90%)	3 (10%)	1 (5%)
10.	7 (37%)	10 (53%)	2 (10%)
14.	4 (21%)	10 (53%)	5 (26%)

(2) 言語学習の難易

3.	18 (94%)	0 (0%)	1 (5%)
4.	11 (58%)	8 (42%)	0
30.	9 (47%)	5 (26%)	5 (26%)
33.	4 (21%)	7 (37%)	8 (42%)

(3) 言語学習について

5.	16 (84%)	2 (10%)	0
15.	13 (68%)	5 (26%)	1 (5%)
31.	15 (79%)	4 (21%)	0
32.	15 (79%)	4 (21%)	0
28.	15 (79%)	3 (16%)	1 (5%)
6.	13 (68%)	4 (21%)	2 (10%)
29.	10 (53%)	9 (47%)	0
24.	2 (10%)	6 (32%)	11 (58%)
8.	7 (37%)	4 (21%)	8 (42%)
17.	6 (32%)	7 (37%)	6 (32%)
23.	8 (42%)	5 (26%)	6 (32%)
27.	8 (42%)	5 (26%)	6 (32%)
34.	4 (21%)	3 (16%)	12 (63%)
18.	9 (47%)	6 (32%)	4 (21%)
22.	9 (47%)	7 (37%)	3 (16%)
7.	12 (63%)	5 (26%)	2 (10%)

(4) ストラテジー

12.	17 (90%)	2 (10%)	0
19.	18 (94%)	1 (5%)	0
9.	1 (5%)	3 (16%)	15 (79%)
20.	7 (37%)	5 (26%)	7 (37%)
11.	3 (21%)	8 (42%)	8 (42%)
16.	6 (32%)	10 (53%)	2 (10%)
13.	9 (47%)	5 (26%)	5 (26%)
25.	10 (53%)	2 (10%)	7 (37%)
21.	8 (42%)	3 (16%)	8 (42%)
26.	12 (63%)	3 (16%)	4 (21%)

(2) 言語の難易について

項目3「易しい言語と難しい言語がある」は賛成が圧倒的に多い(94%)。項目4「日本語は難しいか易しいか」では、「易しい」という答はゼロだが、「どちらとも言えない」という答が8人(42%)もあり、「難しい」が58%であった。日本語は難しいと思われているという解釈よりは、むしろ「難しい」と簡単に言わない人が相当数いることに注目してもよいのではないだろうか。項目33「話すより読む・書くのほうが易しい」に賛成した人はわずか4人ではあるが、非漢字圏出身者 名のなかに4人もいることに注目したい。日本人側のほうが先に「日本語は難しい」というイメージを与えてしまわないように注意する必要があるだろう。

(3) 言語学習の性質

項目5「文化も学びたい」、項目31「興味のあるトピックで学ぶほうがよい」、項目32「外国語は誰でもできる」、項目28「外国語を学ぶなら母語話者の教師がよい」の4項目では、反対がゼロか1で、80%前後の人が賛成を示している。これらに比べ、項目15「ノンバーバルも学びたい」に対する賛成は減るが(68%)が、反対は1人だけであった。「文化」「興味のあるトピック」「ノンバーバル」は学習者に歓迎されており、授業内容を考える際に教師が考慮すべきことだと言えよう。

項目28で母語話者を求める一方、項目34「非母語話者同士で日本語を話すのは意味がない」では反対が63%(12人)あり、賛成が少なかった(16%)。言い換えれば、外国人同士で日本語を使うこともあり、クラスにおいてもペアワーク、グループワークなどの練習は有用だと解釈できる。

項目6「クラス活動のイニシャティブは教師が取るほうがよい」では、賛成が60%弱だが、「どちらとも言えない」と答えた4人を含めると90%に達する。項目8「自分にとって効果的な学習方法については教師のほうがよく知っている」では、賛否が分かれ、ほぼ同数(40%前後)だった。自分の学習スタイルを自覚し、自信を持っている人がかなりいることが推測される。項目24「上達しないのは教師の責任だ」に対しては、反対が11人(58%)で、この学習者たちは学習結果は自分の責任だと捉えていることがうかがわれる。項目17「教師無しでは外国語学習は不可能」の答がほぼ3つに分かれているのは、自律的学習を好む人、教師に頼りたい人など様々な学習スタイルのタイプがあることを示すのであろう。教科書についても、項目27「教科書がなかったら学習できない」は賛成者がわずかに上回るものの、ほぼ3つに分かれていた。

学習観は一色ではないが、教師や教科書がなくても言語学習は不可能ではないし、教室活動では教師がイニシャティブをとることをよしとはするけれども、自分にとって最適の学習方法は自分がよく知っているという学習者が少なくなく、学習結果には自分で責任をもつという傾向がうかがえる。さらに、半数まではいかないが自分自身の学習観と学習スタイルを自覚している傾向が見られ、学習方法の押し付けをしないように慎重な教師行動が必要だということが示されていると言えよう。

(4) 言語学習とコミュニケーション・ストラテジー

圧倒的に賛成が多いのは、項目12「日本人と練習するのは楽しい」、項目19「何度も繰り返し練習することが大事」の二つで、どちらも賛成が90%に達している。項目9「正確に話せるまで日本語で話さないほうがよい」では、反対が80%弱あり、積極的に日本語の使用を心がけていると解釈できるであろう。一方で、項目20「日本語で話すと臆病になる」という心理面では、賛成派、反対派、どちらとも言えないの3派に分かれ、知識や理解力はあるとしてもコミュニケーションを日本語で行うとなると躊躇してしまうタイプが3分の1以上(37%)を占めていた。

項目13「単語が分からなければ推測してもよい」、項目25「クラスで分からないときは母語を使ってもよい」という日本語能力の不足を補うストラテジーでは、どちらも賛成が50%前後あるのに対し、反対が前者では26%、後者では37%あり、推測や母語の使用を認めていない人もあるようだ。しかし、現実のコミュニケーション状況を考えると、もっとこのストラテジーが使われてもよいと思われる。

項目11「授業計画を学習者が話し合いで決めるのは時間の無駄である」に対して、反対と「どちらとも言えない」という答が同数で8人(42%)ずつであった。賛成が3人だけであるということは、学習者から主体的な学習計画への関わりが求められているとも解釈できるのではないだろうか。項目16「好きな方法ではなくても教師のアドバイスには従う」は賛成も反対者もわずかだが、「どちらとも言えない」という答は10人(53%)で半数を超えている。

5. まとめと今後の課題

講師控え室においては「以前の学生は...」「この頃の予備教育の学生は...」という言葉で留学生の変化が語られている。各期ごとに学習者のタイプは異なり、また、一人一人も個性豊かな学習者である。その学習者に、時には集団として、時には個別に、よりよい処遇を提供しようと教師は心をくだしている。留学生の実態を把握し、集団としてどのような傾向があるのかを知ること、また、時の流れ、国際社会の変化、国の留学生受け入れ政策の変更、大学の留学生受け入れ体勢の変化、などとともに留学生も変わってきており、これからも変わっていくと考えられる状況下において長期的視野に立って、留学生の変化を知ることが、彼等の留学目的達成をより効果的に日本語学習の分野で支えていくために欠かせないであろう。

冒頭でも述べたが、これは留学生がどのような期待、予想、抱負を持って来日し、何年かに及ぶ留学生活の中で日本語学習をどのような位置において臨んでいるのかといったことを知るための入り口調査であり、さらに、6ヵ月のコース終了時における調査ではどのような感想を持ち、どのような変化があったのか、あるいは、なかったのか、予想と現実の開きはどの程度であったのか、などを調査し、留学初期段階での日本語教育がどんな役割を果たせたのか、果たせなかったことは何なのかなど、今後、客観的データを収集することによって分析する予定である。

ともすれば、教師の教育熱心さ、留学生が将来日本語で苦勞しないようにという配慮などから日

本語学習の比重が大きくなりすぎることもあるかもしれない。あるいは反対に、日本語学習の比重を大きくする必要ができてくるかもしれない。データの蓄積によって留学生像の変化がつかめれば、迅速かつ適切な対応ができるであろう。

今後の課題として、予備教育期間にとどまらず、さらに追跡調査を継続し、留学期間の中で日本語教育がどのような役割を果たしていくべきなのかを探っていく必要がある。そのためには、コース開始時、終了時の調査において学習者に関するどのような情報が役に立つのか、どのような質問の仕方がよりの確な答えを引き出せるのか、など吟味を重ね、より質の高い調査表を作成することも具体的な課題となる。

(注) 参考文献3を参考に質問項目を抽出した。

参考文献

1. Horwits, E. K. (1987) 'Surveying Student's Beliefs about language learning' in Rubin, J. & Wenden, A. (eds.) (1987) *Learner Strategies in Language Learning*, Prentice-Hall International
2. 続有恒・村上英治編「質問紙調査」『心理学研究法』 東京大学出版会
3. 橋本洋二(1993)「言語学習について、BELIEFS把握のための試み-BALLIを用いて-」『筑波大学留学生センター 日本語教育論集』第8号
4. 倉八順子(1994)「第二言語習得における個人差」『教育心理学研究』第42巻 第2号

QUESTIONNAIRE

- 1 Why did you choose Japan for studying? Please choose the two reasons, and write in the parentheses "1" for the main reason, and "2" for the second reason.
- a. () Because Japan is the most appropriate country for my *senmon* studies.
 - b. () Because it was recommended by other/s.
 - c. () Because completing studying in Japan is highly evaluated in my country.
 - d. () Because I want to study in an Asian country.
 - e. () Because I am interested in Japan.
 - f. () Because Japanese society is safe.
 - g. () Because I obtained a scholarship for studying in Japan.
 - h. () Because I could not obtain a scholarship for other countries.
 - i. () Because the Japanese scholarship is better than that of other countries.
 - j. () Because I have been to Japan before.
 - k. () Because Japan is geographically close to my country.
 - l. () Other ()
- 2 What do you expect from studying in Japan most? Please write "1" for the most, and "2" for the second.
- a. () To obtain degree (master degree/doctor degree)
 - b. () To study my field deeply
 - c. () To make human network for future
 - d. () To make friends
 - e. () To become good at Japanese
 - f. () To become knowledgeable about Japan
 - g. () To enrich my experience
 - h. () To save up money
 - i. () I expect nothing special.
 - j. () Other ()
- 3 What is expected of you after you go back to your country most? Please write "1" for the most, "2" for the second.
- a. () To become an expert in your *senmon* field
 - b. () To be good at Japanese
 - c. () To have knowledge about Japan
 - d. () To have human relations in Japan
 - e. () Nothing in particular related with Japan is expected.
 - f. () Other ()

- 4 Do you think you will find a good position back in your country in accordance with the result of your research?
- a. Yes b. No c. I don't know.
- 5 What kind of contact did you have with Japan? Please choose as many as you like.
- a. I have been to Japan before.
 b. I have/had a Japanese acquaintance/s
 c. I have worked in a Japanese company.
 d. I have studied Japanese.
 e. I am familiar with Japanese products.
 f. I am familiar with Japanese culture.
 (i.e. sumo, kabuki, animation, food, and etc.)
 g. Nothing special
- 6 What did you think of Japan before coming to Japan? Please choose as many as you like.
- | | |
|------------------------|--------------------------|
| a. distant | b. psychologically close |
| c. not so interesting | d. interesting |
| e. unfavorable | f. favorable |
| g. dangerous | h. safe |
| i. poor | j. rich |
| k. high cost of living | l. low cost of living |
| m. ugly | n. beautiful |
| o. unkind | p. kind |
| q. closed | r. open |
| s. undemocratic | t. democratic |
| u. discriminating | v. efficient |
| w. over-working | x. hard-working |
| y. crowded | z. honest |
- 7 How did you foresee life in Japan?
- a. I expected that lectures in graduate school would be given in Japanese.
 b. I expected that technical books in my specialty would be written in Japanese.
 c. I expected that I would have to communicate with my academic adviser in Japanese.
 d. I expected that I could communicate in English in daily life.
 e. I expected that I could easily master everyday Japanese.
 f. I expected that the life style in Japan would be completely different from that of my country.
 g. I expected that the writing system (letters) would be completely different from my language.

8 How did you prepare before coming to Japan?

- a. I did nothing.
- b. I studied Japanese.
- c. I read (a) book/s about Japan.
- d. I collected information from friend/s or acquaintance/s and so on.
- e. Other ()

9 How did you expect to spend the first 6 months in Japan?

- a. studying Japanese intensively
- b. preparing for the entrance examination
- c. studying my own field as much as possible
- d. studying both Japanese and *senmon*
- e. determining the direction of my future study
- f. getting used to Japanese life
- g. thinking about my future
- h. relaxing
- i. other ()

10-1 What are your purposes of learning Japanese? Please circle as many as you like and write "1" for the main purpose, "2" for the second.

- a. () To pass the entrance examination of a graduate school
- b. () To use it for my *senmon* studies
- c. () To obtain social information
- d. () To make good human relations
- e. () To use it in daily life
- f. () To understand Japanese culture, or their way of thinking better
- g. () To use it for my job in future
- h. () To obtain a good position in my country
- i. () Other ()

10-2 About your hope for learning Japanese during your stay in Japan.

(1) Do you want to learn Japanese positively (eagerly)?

not at all 1 2 3 4 5 very much
|-----|-----|-----|-----|

(2) Do you think that you will continue to learn Japanese, even if you feel difficulty in the learning?

not at all 1 2 3 4 5 very much
|-----|-----|-----|-----|

(3) To which level of Japanese language learning do you want to reach during your stay in Japan?

elementary | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | upper level
 |-----|
 intermediate

(4) Would you like to be able to use Japanese for your SENMON studies?

not at all | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | very much
 |-----|

11 Have you ever learned any foreign language

Yes

No (→ Please go to 12)

11-1 Which language and how did you study in class? Please choose form a to j (in below).

which language	** English				
period	'75/9-78/6				
how?	a, f, h				

a. conversation	b. lecture	c. oral practice
d. translation	e. grammar	f. language lab.
g. reading comprehension	h. using audio visual materials	
i. following a textbook		
j. other ()		

12 How did you imagine you would be taught in the Japanese course in Tsukuba? Please circle.

| 1. teaching method |

- | | | |
|--------------------------|---------------------------------|------------------|
| a. conversation | b. lecture | c. oral practice |
| d. translation | e. grammar | f. language lab. |
| g. reading comprehension | h. using audio visual materials | |
| i. following a textbook | | |
| j. other () | | |

| 2. classroom size |

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| a. more than 20 persons | b. 10 ~ 20 persons |
| c. less than 10 persons | d. individual lesson |

| 3. classroom hours |

- | | |
|------------------------|---------------------|
| A How many hours a day | b. 3 ~ 5 hours |
| a. 5 hours or more | d. less than 1 hour |
| c. 1 ~ 3 hour(s) | |
| B How many days a week | b. 3 ~ 4 days |
| a. 5 ~ 6 days | |
| c. 1 ~ 2 day(s) | |

13 What do you think you would be able to do in Japanese after the 6 months' course ?

- a. I would be able to read newspapers.
- b. I would be able to read books/ dissertations for my *senmon* studies.
- c. I would be able to read novels/magazines.
- d. I would be able to read/write letters.
- e. I would be able to write papers and dissertations for my *senmon* studies.
- f. I would be able to chat with Japanese people.
- g. I would be able to discuss with Japanese people on contemporary issues.
- h. I would be able to understand TV news, drama, etc.
- i. I would be able to understand lectures.
- j. I would be able to make presentation on my *senmon* studies.
- k. I would be able to attend seminars.
- j. other ()

14 If you were not a student before attending this Japanese course, please answer the following questions.

1. Are you reluctant to study as a student again?

- a. Yes
- b. No

2. Please write the reason(s) or your feeling about it below.

Thank you for your cooperation

<Face Sheet>

nationality:		name (if you don't mind):	
age:	sex: M F		
Language	mother tongue:		
which language can you use?			
eg. English			

☆ Have you ever been to Japan before?

() No

() Yes → When: _____ Period: _____

Purpose: 1. study 2. travel 3. job training
 4. business 5. visiting relatives/friends
 6. others ()

B A L L I

Below are beliefs that some people have about learning foreign languages.
Read each statement and then decide if you :

(1) strongly agree, (2) agree, (3) neither agree nor disagree, (4) disagree, (5) strongly disagree.

There are no right or wrong answers. We are simply interested in your opinions. Mark each answer on the special answer sheet. Question 4 is slightly different and you should mark them as indicated.

REMEMBER:

(1) strongly agree, (2) agree, (3) neither agree nor disagree, (4) disagree, (5) strongly disagree.

- | | |
|--|-----------|
| 1. It is easier for younger people than older people to learn a foreign language. | 1-2-3-4-5 |
| 2. Some people have a special ability for learning foreign languages. | 1-2-3-4-5 |
| 3. Some languages are easier to learn than others. | 1-2-3-4-5 |
| 4. Japanese is: | |
| (a) a very difficult language | a-b-c-d-e |
| (b) a difficult language | |
| (c) a language of medium difficulty | |
| (d) an easy language | |
| (e) a very easy language. | |
| 5. I want to learn about the culture behind the foreign language. | 1-2-3-4-5 |
| 6. Teachers should take initiative of classroom activities. | 1-2-3-4-5 |
| 7. It is important to speak Japanese with an excellent pronunciation. | 1-2-3-4-5 |
| 8. Teachers know better than you what is the most effective way for your own learning. | 1-2-3-4-5 |
| 9. You shouldn't say anything in Japanese until you can say it correctly. | 1-2-3-4-5 |
| 10. It is easier for someone who already speaks a foreign language to learn another one. | 1-2-3-4-5 |
| 11. It is a waste of time for learners to decide for themselves the lesson plans or schedule through discussion. | 1-2-3-4-5 |
| 12. I enjoy practicing Japanese with the Japanese I meet. | 1-2-3-4-5 |

- 13.It's o.k. to guess if you don't know a word in Japanese. 1-2-3-4-5
- 14.I have a special ability for learning foreign languages. 1-2-3-4-5
- 15.Non-verbal factors should be taken into account in language learning. 1-2-3-4-5
- 16.You will obey your teacher's advice even If it doesn't suit your favorite way 1-2-3-4-5
- 17.It is impossible to learn a foreign language without a teacher. 1-2-3-4-5
- 18.The most important part of learning a foreign language is learning vocabulary words. 1-2-3-4-5
- 19.It is important to repeat and practice a lot. 1-2-3-4-5
- 20.I feel timid speaking Japanese with other people. 1-2-3-4-5
- 21.If beginning students are permitted to make errors in Japanese, it will be difficult for them to speak correctly later on. 1-2-3-4-5
- 22.The most important part of learning a foreign language is learning the grammar. 1-2-3-4-5
- 23.Private matters are not good topics to talk about in a language learning classroom. 1-2-3-4-5
- 24.If I should fail to make progress in language learning, teachers are to blame. 1-2-3-4-5
- 25.It's o.k. to speak in your mother tongue in the classroom if you can't make yourself understood in Japanese,provided your classmates understand it. 1-2-3-4-5
- 26.It is important to practice with cassettes or tapes. 1-2-3-4-5
- 27.You cannot learn languages without textbooks. 1-2-3-4-5
- 28.When you learn a foreign language, it is best to learn it from a native speaker. 1-2-3-4-5
- 29.I would rather work on same learning activities as my peers do during the classwork. 1-2-3-4-5
- 30.It is difficult to learn a foreign language. 1-2-3-4-5
- 31.It would be interesting to learn a foreign language through topics that I am interested in. 1-2-3-4-5
- 32.Everyone can learn to speak a foreign language. 1-2-3-4-5
- 33.It is easier to read and write Japanese than to speak and understand it. 1-2-3-4-5
- 34.It is useless and meaningless to speak in Japanese between non-Japanese-natives. 1-2-3-4-5